

# ホームルーム活動（人権）学習指導案

指導者

- 1 日 時 令和 年 月 日 ( ) 限目
- 2 場 所
- 3 指導ホームルーム
- 4 主 題 公正な採用選考について考える
- 5 主題設定の理由

(省略)

- 6 ねらい  
就職差別を、一人ひとりに保障されている基本的人権が侵害されている重大な問題として認識させ、差別を見抜き、差別を許さない態度と、差別解消への実践力を育成する。
- 7 指導計画
  - (1) これまでの学習  
「公正な採用選考について考える」①・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間 (1/2)
  - (2) 本時の学習  
「公正な採用選考について考える」②・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間 (本時2/2)
  - (3) これからの学習  
「結婚について考える」・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間  
「卒業するにあたって」・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 8 本時
  - (1) 目標
    - ①「社用紙」と「全国高等学校統一用紙」を比較し、本人の能力や適性に関係ない項目は、削除されていることに気付こうとしている。
    - ②「就職差別につながる」とされる 14 項目」の具体的な内容を理解し、履歴書や面接に隠された、差別につながる質問や記入欄を見抜き、就職差別の解消に向けて主体的に行動しようとしている。
  - (2) 普遍的なテーマ  
法の下での平等、就職の機会均等

## (3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導入 5分	1 本時の目標を知る。	・本時の流れを説明する。	
	公正な採用選考について考えよう。(就職差別について考えよう)		
展開 40分	2 就職先を決定する際、どのような点を重視するか・就職試験を受ける際、会社に自分の何を見てほしいかについて事前に行ったアンケート結果を見る。	・Forms のアンケートに回答した結果からクラスメートの考えを確認させる。	・アンケート結果を確認できている。(価値的・態度的側面)
	3 「社用紙」と「全国高等学校統一用紙」を比較し、その違いと問題点について考え、発表する。	・本人の能力や適性に関係のない項目は「統一用紙」から削除されていることに気付かせる。	
	4 「社用紙」が「全国高等学校統一用紙」に変わった背景や、「就職差別につながる」とされる 14 項目」について知る。	・差別選考につながる事件についても触れ、「統一用紙」採用までの運動について説明する。	・「統一用紙」に変更した理由と「14 項目」がなぜ差別につながるか理解できている。(知識的側面)
	面接でのこんな質問 適切か不適切か考えよう。		
	5 ロールプレイを観察しながら、不適切な質問やその理由を各グループ内で考える。	・2つの場面から、それぞれ不適切であると思う質問を抜き出させ、理由とともにワークシートにまとめさせる。(学習者用タブレット、MetaMoJi Classroom 使用)	
	6 グループで発表し、各グループの発表内容を知る。	・各グループのワークシートをタブレットで共有し、発表を電子黒板にも提示する。	
	7 応答を拒否するときの答え方を確認し、理解する。	・「14 項目」に該当する質問を受けたときの答え方を理解させる。	・「14 項目」について理解できている。(知識的側面)
	8 「14 項目」を含めた面接のロールプレイを行い、差別に該当するところを確認する。	・ロールプレイを通して、実際に面接を受ける立場に立たせ、質問内容から差別に該当する所を見抜かせる。 ※「今のご質問は就職差別につながるおそれがありますので答えられません。」	・差別につながる質問と見抜こうとしている。(価値的・態度的側面)
まとめ 5分	9 本時の振り返りをする。	・各自のワークシートに感想をまとめさせ、就職差別が、身近な問題であることに気づき、本人の能力や適性以外、本人に責任のない事柄は選考基準にならないことを再確認させてまとめとする。	・自らの行動が人権を守ることにつながることについて考えている。(価値的・態度的側面)

